
おばあちゃんのまな板

7 霧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おばあちゃんのまな板

【Nコード】

N7504V

【作者名】

7霧

【あらすじ】

90才の橘さえの、日常から垣間見える世の中とは。

おばあちゃんのまな板

昨日の夜から降り続いた雨は、今朝ようやく止んだ。

黒犬平助の小屋の前には、湖みたいな水溜まりができていた。

平助は寝そべったまま、少し水を飲んで、また眠った。

ようやく、びしょ濡れの頭にお日様のひかりがあたりはじめた。

朝顔の花から、雫が落ちた。

8月6日、早朝5時。原爆の日。

平助の飼い主である橘さえは、もう90才を目前にしていた。

明治創業の老舗旅館の一人娘として産まれたさえは、料理の一つもできなかったが、誰よりも賢かった。

また、時代を生き抜く強さも持っていた。

さえの両親は、女は仕事をするものではないと言ったが、彼女は結婚後も約四十年間働いた。

その間、戦争があったが、さえにしてみれば、やるだけやった、今となればそのひと言である。

さて、90才も手前になって来ると、色々覚束ないところも出てくる。

ここのところ、どこかしこに青アザができる。どこでぶつけたか、さえには覚えがない。毎月届いていた生け花用の花も、いつの間にか来なくなった。

さえはぼんやりと、ソファに座る。お茶は、胃が受け付けないからいらぬ。脱水症状を起こすから飲めと言つ医者の忠告など、どこ吹く風といった様。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7504v/>

おばあちゃんのまな板

2011年10月9日13時14分発行